

『新吉踊り』

伊田地区に古くから伝承されている、『掛川新吉』供養の盆踊りです。

掛川新吉の徳を慕って、毎年旧暦7月17日（現在は新暦8月17日）に行われます。



※昭和47(1972)年大方町文化財指定。同58(1983)年、日本フォークダンス連盟から「日本の民謡」として推薦されました。

■掛川新吉

その昔大嵐に明けた朝、伊田の浜辺に多数の流木が打ち上げられました。

里人たちは、競ってその流木を拾い上げました。

そのことが役所の知るところとなり、里人全員が処刑されることになった時、土地の庄屋『掛川新吉』が「これは拙者一存で拾わせたもので里人に罪はない」と名乗り出て、その罪を一身に引き受け、伊田の浜辺で切腹し、野末の露と消えたといわれています。

■新吉踊り

以来、この新吉の徳を慕う里人たちは、盆が来るたび、新吉の墓の前に集い、僧侶の読経により墓前祭を行い、門出式後、「太陽西に沈まば直ちに踊り場に集合すべし」の新吉踊りの掟に従って船上場に集まり、里人はもちろん近隣の郷からも老若男女がにぎやかに踊り明かしていました。

今はさすがに一部簡素化していますが、8月17日の盆踊りと、新吉の墓前での供養の盆踊りは欠かさず行っています。

今年は、盆に帰省してくる人に合わせて**8月15日**に行う予定です。その盆踊りで使われる口説きを紹介します。



伊田郷土芸能保存会による新吉踊り(民謡の夕べにて)

■新吉くどき

幡多の大方伊田なる里に昔先祖を救うてくれた徳を慕って里人達は今に伝わる新吉くどき

伊田の港は嵐に明けて
今日も日時化じや浜辺に出たら
逆まく波に打ち上げられた
太い材木ごろごろと

おらん親方新吉どんは
なんとというたちお偉い方よ
材木かくしたおらん罪を
ぬしがかぶって名乗り出た

人も港も変わったけれど
掛川新吉今でも生きて
盆が来るたび昔をしのぶ
義人供養の盆おどり

千秋万歳おさめようじゃないか
末は鶴亀アノ一五葉の松

■佐賀の九兵衛さん

佐賀の港の近くにも、地域の人たちにより大事に祀られている『大町九兵衛』という方の碑があります。

口伝によると、『掛川新吉』の伝説と非常に似ていますが、『九兵衛』の場合は赦免の報が間にあわなかったということですが。

『九兵衛』の場合も、浜町地区が明神・会所地区の協力で盆踊りを行っています。

現代社会では処分に苦勞している流木も、燃料を木に頼っていた昔は、命に代えるほど大切なものだったのです。

○お問い合わせ

教育委員会文化振興係
(大方あかつき館内)

☎ 43-2110 (直通)